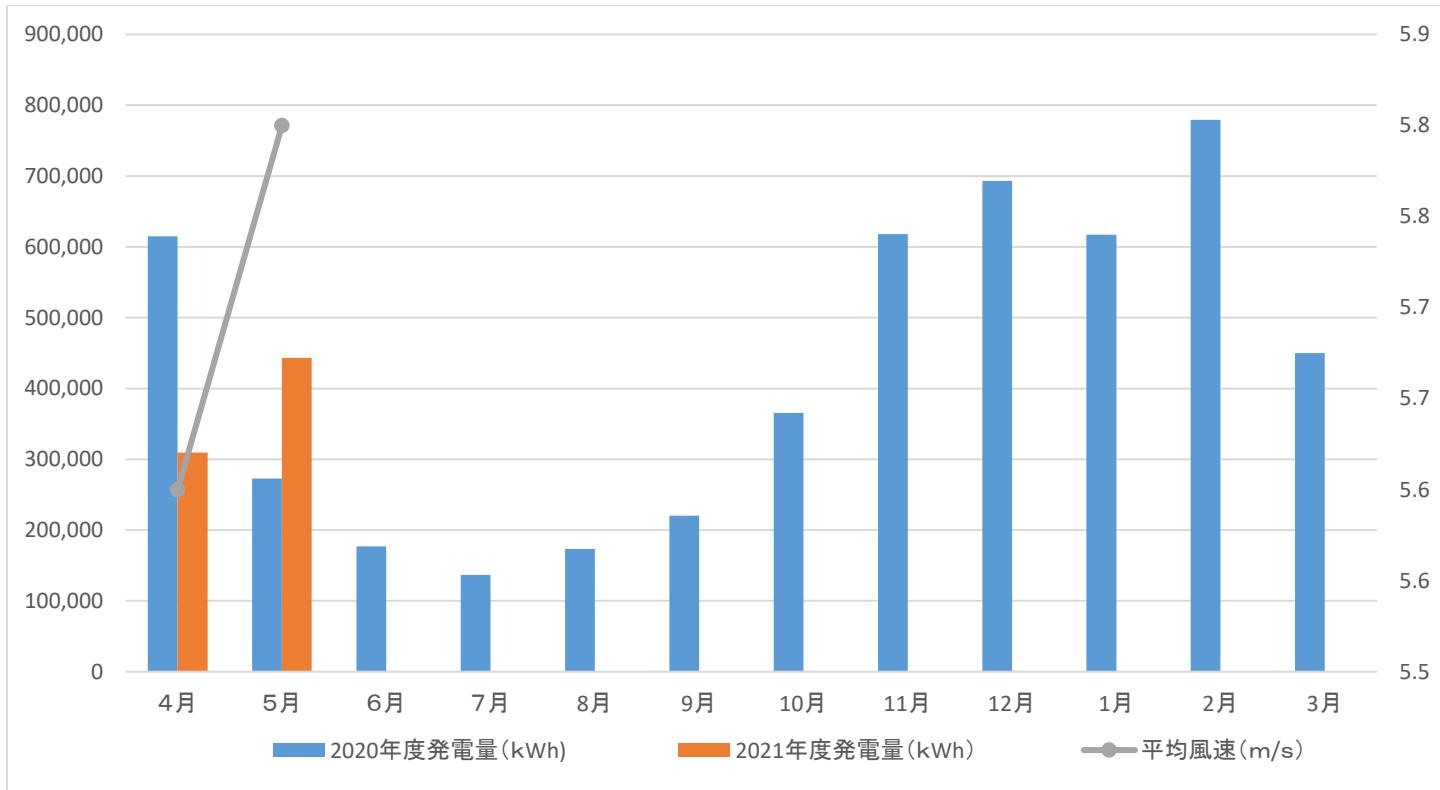


秋田県にかほ市に生活クラブ東京・神奈川・埼玉・千葉が建設した生活クラブ風車「夢風」に関するニュースをお届けします。

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-6-9 大内ビル3F 一般社団法人グリーンファンド秋田
発行責任者 半澤彰浩(代表理事) 編集責任者 鈴木伸予

○ 2021年度発電実績



5月度運転状況について

- 平均風速は前年より0.8m/s高い実績でした。
- 5月の風況は2014年と並んで過去最高となり、発電量も前年比162.5%となりました。
- 5/19に受変電設備の年次点検を行いました。



秋田県にかほ市で岩ガキの素潜り漁が解禁された。写真はにかほ市象潟町の小砂川漁港。
(6/2秋田魁新聞)

	発電量(kWh)	平均風速(m/s)	稼働率(%)
4月	309,276	5.6	92.4
5月	443,029	5.8	98.0
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

グリーンファンド秋田第13期定時社員総会報告

5月25日、第13期定時社員総会を開催しました。

グリーンファンド秋田の社員は、生活クラブ東京、生活クラブ神奈川、生活クラブ埼玉、生活クラブ千葉、北海道グリーンファンド、市民風力発電の6者です。

社員総会は、社員代表出席6者、議決権6個で、すべての議案が承認可決されました。

第1号議案、2020年度事業活動報告、剩余金処分案の承認の件。

2020年度の年間発電量は、5,118,077kWh(計画比108.2%、前年比107.4%)となり、過去最高の発電量となりました。にかほ市との交流企画はコロナ禍の為、事務局リーダー研修のみの実施となりました。剩余金処分では、次期の増速機交換工事のために修繕積立金を取り崩しを承認しました。

第2号議案、2021年度事業活動計画及び予算案の承認の件。

2021年度は、2020年1月から調査を進めてきた増速機事故の対応策として、増速機全体の交換工事を8月に実行します。

にかほ市との交流企画、夢風ブランド品・特産品の共同購入、デポーにかほフェアの開催などを計画します。

第3号議案、役員の選任の件。

改選期の為、理事、監事の選任を行いました。理事は全員再任となり、監事には加藤稔さんが新しく就任されました。

新任監事紹介



監事就任のご挨拶

この度監事をお受けする事となりました、生活クラブ生活協同組合神奈川常勤理事の加藤稔と申します。簡単ですが就任のご挨拶をさせて頂きます。

生活クラブ風車「夢風」は、単純に発電する「機械」としてではなく、人と人との交流「顔の見える風車」、地域の活性化、再生可能エネルギーへのシフト「脱原発」の発信と様々な希望が込められていると思っています。第13期総会にて2021年度(第14期)事業活動計画及び予算案の承認がありました。その中では、生活クラブ生協と連携を図った活動の計画も提案されており、にかほ市と生活クラブとの地域間連携による取り組みの推進を掲げられています。監事としましては、事業計画等の業務監査は勿論ですが、こうした連携活動について、計画通り推進しているか監査出来たらと良いと考えています。

計画の中には、にかほ市民に風力電気や再生可能エネルギーの社会的受容や理解を醸成するための新しい事業も検討していくとしています。この間、市民との意見交換会で再生可能エネルギーのメリットなどがわからないといった意見があり、計画していくとの事ですので、再生可能エネルギーをわかりやすく企画や講座などで伝え、「夢風」を通じてさらなる交流と連携への発展に繋がる事を願います。

風車 DVD の撮影を行いました



コロナ禍で秋田県にかほ市での交流をすることが難しくなっています。実際に風車を見学することができない代わりとして、バーチャルで見学体験のできるような生活クラブ風車「夢風」のDVDの作成を進めています。撮影は、映画「おだやかな革命」のいでは堂渡辺智史監督と佐藤広一カメラマンに依頼しています。

6/7、にかほ市芹田地区の風車サイトで、映像撮影を行いました。午前中に、地上80mのナセルに昇って、風力発電の仕組みやメンテナンスの様子などを撮影しました。午後からは、にかほ市の方のインタビューの撮影です。風車の下に着て頂き、芹田自治会前自治会長の荒川定敏さん、夢風ブランド生産者の伊藤製麺所の伊藤実さん、にかほ市役所まちづくり推進課の高橋潔さん、保守管理を委託している(株)市民風力発電の渡邊剛士さんの撮影を行いました。

いでは堂の渡辺監督からは、「今回は、かなり高さのわかる映像が取れましたので、ナセルの上に登れない組合員の方々にも、高いところの臨場感を疑似体験してもらえます。」とのことです。7月初めには完成予定です。

【写真:荒川定敏前自治会長のインタビューの様子】

生活クラブが署名を提出しました

生活クラブ生協は、「未来につなげる♪エネルギーアクション」と題して、国のエネルギー基本計画の見直しに向けた、署名活動や各自治体への働きかけを行っています。署名では、「2030年度の再生可能エネルギー電力目標を60%以上、2050年度は100%を求める」とし、原子力発電、石炭火力発電所の廃止と再エネへの推進と政策転換を求めていました。

6/10、生活クラブ生協は、温暖化防止を訴える若者の運動「あと4年、未来を守るのは今キャンペーン」に賛同する団体と共に、先進国7カ国首脳会議(G7サミット)が6/11から始まるのを前に、脱原発と脱炭素を求める27万4830人の署名を政府に提出しました。



前列左:生活クラブ神奈川 桜井薰副理事長



6/11 東京新聞朝刊

徳島新聞にNPO法人北海道グリーンファンドが掲載されました。

6/4、徳島新聞に、当社社員のNPO法人北海道グリーンファンドの市民風車の取り組みが掲載されました。記事では、市民風車の活動のきっかけから、石狩市厚田区での基金の取り組みが紹介されました。

新聞でも取り上げられた「厚田市民風車」の取り組みを紹介します。

石狩市では風車建設にあたり、「環境まちづくり条例」を制定し、厚田市民風車の売電収益の一部は、条例基金に拠出しています。拠出した資金は、植林やエコカー導入などに活用されるなど地域の環境保全に役立てています。

また、市への寄付とは別に、風車の建っている厚田区への助成も行っています。石狩市厚田区は、かつては厚田村という独自の自治体でしたが、2005年に石狩市と合併しました。現在の人口はおよそ2000人ほどで、全国の農山漁村と同様、少子高齢化と人口減少が進んでいます。

市民出資の営業利益を用いて、まちづくりに励む地域の活動に、地元の人たちと協議しながら毎年活動への支援を行っています。これまで、地域の資料館の運営や水彩画展など、厚田への交流人口の増加など、厚田地域を活性化する取り組みを支援してきました。また、コンクリートに囲まれた岸壁を明るく彩る魚介類のイラストや文字を描く漁協の女性部によるプロジェクト資金としても使われています。

未来との
風力発電(4)

徳島新聞 2021年6月4日 金曜日 画面 3面 第1版 3ページ

厚田市民風車

皆の力で社会変える

10回にわたり連載

コラム GW中に東北エリアの再エネ比率が87.7%に

東北電力ネットワークは2021年5月13日、東北6県と新潟エリアの大型連休期間中(同年4月29日～5月9日)における電力需給データを公開した。一部の時間帯において再生可能エネルギーの出力が高まり厳しい需給状況となったが、再生可能エネルギー電源に対する出力制御を回避できたといふ。

同エリアにおいて大型連休中に最も再エネ比率が高まったのは5月4日の11～12時で、87.7%だった。具体的にはエリア需要724万kWに対し、太陽光と風力発電の合計出力が635万kW(太陽光552万kW、風力83万kW)となった。

東北電力ネットワークではこれらの状況に対し、火力発電設備の出力抑制や揚水発電設備の揚水運転などを実施することにより需給バランスを維持し、再エネの出力制御を回避した。

